

総 括

夏期日本語教育ディレクター
佐藤 豊

今年度の夏期日本語教育は約 20 カ国から 113 名の受講生を迎えた。7 月 5 日（水）の登録日に始まり、8 月 16 日（水）に終了した。今年は学内寮の使用は、グローバルハウスのみとしたために、受講生の数を例年より若干制限した。また、最近、提携校またはそれに準ずる機関を通しての学生数が多くなり、一般の応募者の受け入れ人数が減っている。一方で、応募数は大幅に受け入れ人数を超えているために、多くの応募者を断らなければならなかった。

1 クラス編成

本年度は、C8（帰国生レベル）の応募がほとんどなかったため、このレベルのクラスは開講せず、7 レベルを開講した。そのうち、2 セクションにしたのは、C1・C3・C4、C5 の 4 レベルであった。合計 11 クラスとなり、講師 24 名が担当した。

2 カリキュラム

JLP のカリキュラムに合わせ、70 分授業を 3 コマずつ、月曜日から金曜日まで行った。今回は、文化プログラムで行われる講義に少なくとも 3 回参加するよう学生に義務付け、それを日本語学習と連携させる活動・課題を与えた。

3 宿舍

夏の暑さが懸念されるとの学生サービス部からの提案に添い、今年は既存寮の使用を取りやめ、グローバルハウスのみを学内においては利用した。その他の宿舍として、ホームステイおよび学外の学生会館を利用した。ホームステイをする学生に対しては全体でオリエンテーションを行い、その後個別に面談を行った。

4 減額プログラム

上記のように、提携校などの機関を通して送られる学生が増加したために、一般応募の受け入れ枠が少なくなり、多くの応募者を断っていることもあり、減額プログラムは利用しなかった。

5 その他

今年は、救急車を呼んだり、病院に学生を連れて行ったりすることが多かった。また、メーリングリストによる連絡を行った。